

観光

小田原が「スバウザ小田原」の運営を「ヒルトン・インタナショナル社」に委託した場合の影響について

Q 次 の 2 点 について伺う。

1 「スバウザ小田原」について、西さがみ連邦共和国の首長会議でどのような話し合いがなされているのか

2 「スバウザ小田原」の運営をヒルトン・インタナショナル社に委託した場合、箱根町への影響について

A 1 点目について、連邦共和国の首長会議の場で「スバウザ小田原」の話が出されたことはなく、現在まで西さがみ連邦共和国

全体の案件として、意見を交わしてはいない。

2 点目について、観光客の多くが温泉や景色を楽しむ、あるいはおいしい食べ物や味わうというような目的意識を持ち、旅を楽しむ今日、その立地、環境などについても、箱根と根府川とは多くの面で趣を異にしていることなどを考えた場合に、ヒルトン・インタナショナル社による業者の経営に直ちに大きく影響を及ぼすことは少ないのではないかと受けとめている。

環境

箱根町環境基本計画について

Q 次 の 2 点 について伺う。

1 昨年度に実施した施策の内容について

2 今年度を実施する施策の計画内容について

A 1 点目について、まず、「安心してくらせるまち」については、きれいな水

の保全のために、公共下水箱根町美化バトリール隊と

道区域外での浄化槽設置に対する合併処理浄化槽設置費補助金制度の創設、また、湖水面の油等流出に対しては、県と連携して監視強化を図った。

「きれいで潤いのあるまち」については、箱根大名行列など観光行事の開催に合わせ、

「自然がいまづくまちづく

もに、ホイ捨て防止のチラシを配布するなど、啓発活動を実施した。

「資源循環型の地球にやさしいまち」については、生ごみ処理機器購入費補助金による、こみの減量化推進、また、各地域公民館まつりにおいて、環境コーナーを設けてこみ減量化、資源化の啓発活動を行

りについては、緑の銀行・苗木の配布による緑化の推進と、各地区自治会の協力による花いっぱい運動事業を展開した。

「歴史的文化遺産が大切にされるまち」については、西さがみ連邦共和国の事業として、地球ファーマー環境議会による箱根での自然観察、愛知県

産業施設

観光物産館の
有効利用について

Q 町 の 考 え 方 について、次の諸点を伺う。

1 物産館の展示を充実させるとともに、郷土資料館の展示品のうち、物産館にふさわしいものは移設することはいかがか

2 案内所を箱根湯本駅に移動できるように箱根登山鉄道と交渉すべきと考えられているが

A 1 点目について、まず、展示の充実については毎年入館者の多い11月に、

寄木組合及び竹友会等の皆様方の新作発表会を行い、その新製品の一部を定期的に入れ替えて展示の充実を図っている。

次に、郷土資料館の展示の移設についてですが、郷土資料館は主に箱根の歴史に関する資料を収集し、その活用を図り、広く啓発していく目的で設置した経緯があり、展示をすべて移設することは難しいかと思いますが、貴重な資料の中で観光物産館にふさわしいものについては、展示について検討していきたい。

2 点目について、湯本の観光案内所については、観光戦略会議の中で、全町的な観光案内所の配置、運営方法なども検討しているとともに、箱根登山鉄道に対しても、駅舎の建て替えなど、箱根湯本駅整備計画の中で配慮してもらうよう、働きかけをしていきたいと考えている。

3 点目について、3階の大会議室を除き、町観光協会などの観光関連団体が事務室として利用されているので、現在の状況では直ちに難しいものと考えていますが、現在物産館を利用されている各種団体ともぜひ話し合いを進めた

田原市議場を利用した子ども環境議会の開催など、小中学生への環境教育を推進した。

2 点目について、実施時期や開催場所は昨年度と変わっていますが、引き続き同様の事業を展開することとしており、今年度については、新たに低公害船外機購入費補助金による芦ノ湖での油汚染防止などの環境推進を進める取り組みを行っていく。